

令和6年8月30日

北欧出張報告書

氏名：吹澤瑞貴

所属：国立極地研究所 日本学術振興会特別研究員 (PD)

滞在期間：令和6年7月28日～8月17日

滞在先：Tromsø, Skibotn (Norway), and Kilpisjärvi (Finland)

2024年7月29日から8月2日にUiT ノルウェー北極大学で開催された EISCAT Symposium 2024 と The 48th Annual European Meeting on Atmospheric Studies by Optical Methods に参加するために7月28日から8月2日までノルウェーのトロムソに滞在した。シンポジウム初日となる7月29日にはコンピュータトモグラフィを用いた電離圏電気伝導度の3次元分布の再構成について招待講演を行った(図1)。またシンポジウム4日目の8月1日にはEISCAT_3D レーダーを用いた電離圏電場推定についてポスター発表を行った(図2)。現地参加することで自身の研究と関連した研究を行っている海外の研究者の方と気軽に研究について議論をしたり交流を深めたりすることができ、とても有意義な経験をする事ができた。

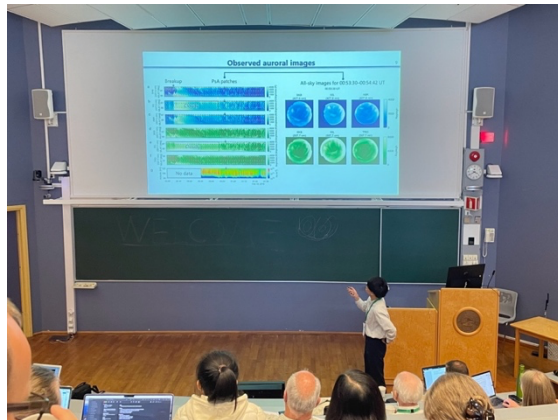


図1 招待講演の様子。



図2 ポスター発表の様子。

シンポジウム終了後の8月3-5日には、ノルウェーのシーボトンにオーロラ観測用の高感度カメラを設置するためにトロムソからシーボトンにバスで移動した。シーボトンではこれまで図3の写真奥側に写っているシーボトン天文台の建物内にカメラを設置していたが、今回は天文台前に新たに設置された小屋（写真手前）の中に移動する必要があった。そのため、カメラの固定方法やネットワーク環境などが変わり試行錯誤等が必要となったが最終的に無事設置を完了した（図3）。同様に、EISCAT トロムソサイトにも高感度カメラを設置するため8月6-11日にはトロムソに滞在した。



図3 シーボトンに設置した高感度カメラ。

その後、8月12-16日にはフィンランドのキルピスヤルビ生物観測所で開催されたEISCAT Radar School 2024に参加するためにキルピスヤルビに滞在した（図4）。このレーダースクールでは非干渉散乱レーダーの歴史や観測原理などについて学び、4人1組のグループに分かれてEISCATレーダーを用いた実験計画を立てて実際に実験を行い、得られたデータを解析して最終日にプレゼンテーションを行った。短期間の間に実験計画からプレゼンテーションまで行うのは大変だったが、様々なバックグラウンドを持つ学生や研究者、先生方と英語でディスカッションしながらグループ内で1つの発表にまとめていくという貴重な経験することができ、国際的な共同研究の面白さを直に体験することができた。今回の出張で海外の様々な研究機関に知り合いができ、今後の国際共同研究の足掛かりとなる関係性を築くことができたのは非常に大きな収穫である。



図4 EISCAT Radar School 2024 の集合写真 (撮影: Thomas Ulich)。